

令和 8 年産

仙南稲作情報(第4号)

令和8年7月14日発行
宮城県大河原農業改良普及センター
TEL:0224-53-3496
FAX:0224-53-3138
E-mail:oknkt@pref.miyagi.lg.jp

- 5月10日移植の南部平坦「ひとめぼれ」は、7月4日ごろ幼穂形成始期に達したと見られます。
- 葉色の低下がみられる場合は、幼穂形成期から減数分裂期に追肥を行いましょう。
- 斑点米カメムシ類の多発が予想されているため、本田の残草対策やほ場周辺・畦畔の除草作業、出穂後の殺虫剤散布など、斑点米カメムシ対策を計画的に行いましょう！

1 気象経過

- ・東北南部は、6月20日頃に梅雨入り。平年より8日遅く、昨年より3日早い。
- ・6月は、平均気温が平年よりもやや低く、積算降水量は平年の2倍となった。

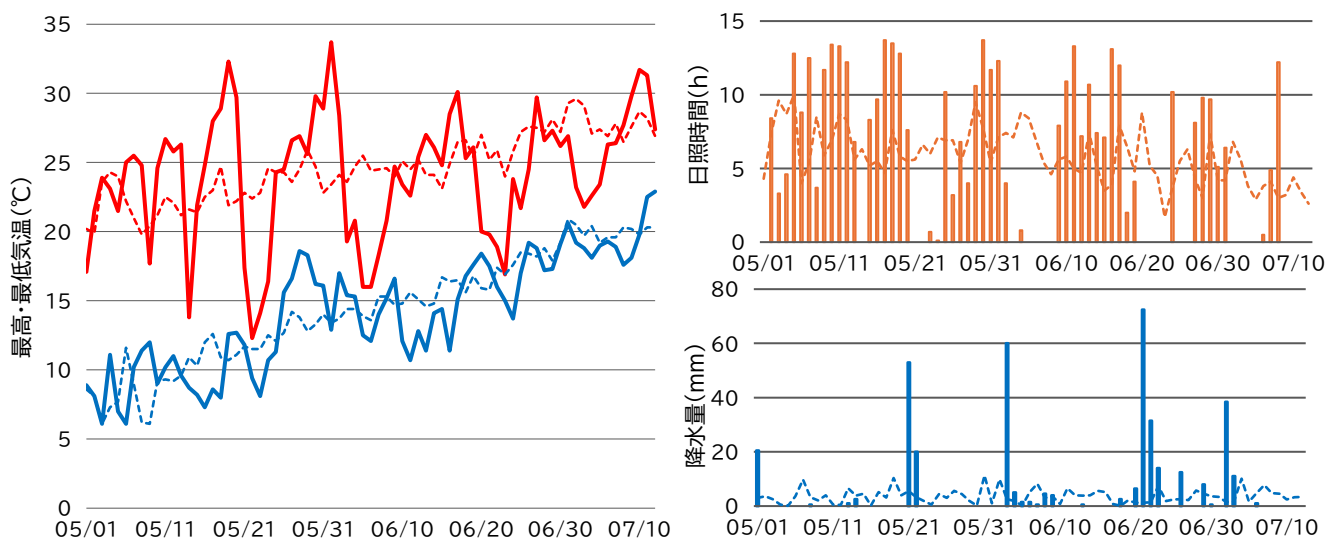


図1 気象経過（丸森アメダス、5/1～7/12、点線は直近10年の平均値）

表1 気象庁の向こう1か月予報（東北または東北太平洋側：7/9発表）

気温			降水量	日照時間
7/11～17	7/18～24	7/25～8/7		
高い	高い	平年並	ほぼ平年並	ほぼ平年並

2 生育状況

草丈：やや低い 茎数：平年並み～やや多い 葉色：淡い
5月上旬移植の南部平坦ひとめぼれは、まもなく幼穂形成期に

表2 「ひとめぼれ」「つや姫」の生育調査結果（7/10 調査）

市町	地帯区分	品種	田植		草丈			茎数			葉数			葉色		
			本年	前年	(cm)	平年比	前年比	(本/m ²)	平年比	前年比	(枚)	平年差	前年差	(GM)	平年差	前年差
角田市	南部平坦	ひとめぼれ	5/13	5/12	65.7	92%	82%	435	104%	91%	10.4	-1.6	-1.8	37.6	-0.3	+3.1
白石市	西部丘陵	ひとめぼれ	5/19	5/18	56.8	91%	88%	308	79%	99%	10.0	-1.0	-0.7	41.3	-0.2	+4.3
角田市	南部平坦	つや姫	5/23	5/24	61.9	97%	94%	397	91%	99%	9.7	-0.9	-1.6	44.6	+0.9	+0.5
村田町	南部平坦	つや姫	5/4	5/4	60.4	88%	83%	522	118%	148%	10.7	-0.5	-0.7	41.4	+3.1	+11.2

※平年値は、直近5か年（R3～R7）の平均値

白石市「ひとめぼれ」はR6年度から調査ほ場を変更しているため、平年比・差は参考値。

- ・全体的に、生育ステージが直近5年平均よりも数日遅く推移している。
- ・南部平坦では、草丈が低いが茎数はほぼ平年並み。西部丘陵の「ひとめぼれ」では、茎数が少ない。
- ・「ひとめぼれ」の葉色は、平年並みに戻ってきた。つや姫は、やや高め。
- ・5/10移植の南部平坦「ひとめぼれ」は7/4頃に幼穂形成始期に到達したとみられる。

表3 幼穂長（7/10 調査）

市町	品種	幼穂長		
		(mm)	平年差	前年差
角田市	ひとめぼれ	9.9	-8.4	-13.4
白石市	ひとめぼれ	3.1	+1.3	+1.1
角田市	つや姫	—	—	—
村田町	つや姫	1.5	-2.1	-3.3

※平年値は、R3～R7のうち生育の早かったR6の結果を除いた4か年の平均値

表4 栽培支援システムのNDVI（植生指数）と生育ステージ予測

市町	地帯区分	品種	移植日	平均NDVI	生育ステージ予測		
					幼穂形成期	減数分裂期	出穂期
角田市	南部平坦	ひとめぼれ	5/10	0.46 (6/17)	—	7/14	7/26
白石市	西部丘陵	ひとめぼれ	5/17	0.58 (7/8)	—	7/20	8/1
角田市	南部平坦	つや姫	5/25	0.56 (7/7)	7/19	7/27	8/10
村田町	南部平坦	つや姫	5/5	0.74 (6/28)	—	7/21	8/1

※栽培支援システムは、BASF社の「ザルビオ®フィールドマネージャー」を使用。

NDVIは、植物の生育量や活性度（葉色）を数値化したもの。（）内の日付は衛星画像の撮影日。
生育ステージ予測は、7/10時点の移植日、品種、気象データ等を基にシステムが予測したもの。

3 今後の管理

(1)水管理

- ・中干し終了後に、急に湛水状態にすると土壌の還元が急激に進み、酸素不足になり根を傷めやすくなります。**中干し終了後の入水は、田面が浸る程度の走り水**とし、その後は「間断かん水」に移行しましょう。
- ・穂ばらみ期～開花期は、水の吸収量が最も多い期間ですが、高温条件では水温が高くなりやすいため、根に水分と酸素を供給できる「間断かん水」を行いましょう。
- ・開花期以降も高温が続く場合は、「飽水管理」により地温の低下に努めましょう。
- ・「飽水管理」は、自然落水しながら足跡に水がなくなったら、田面が浸るくらいに入水する、水管理方法です。湛水状態にならないため、水温（地温）が温まりにくくなります。

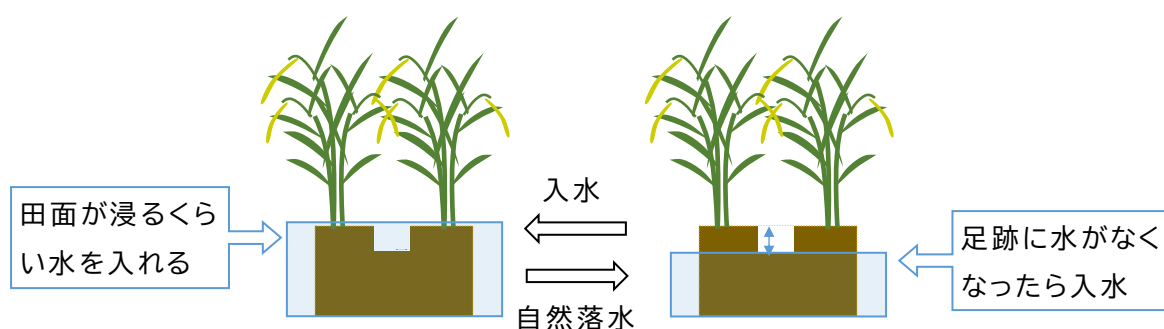


図2 飽水管理のイメージ

(2)追肥

- ・幼穂形成期の追肥は、穂数や1穂粒数の増加に有効ですが、窒素供給が過剰になると、下位節間が伸びて倒伏の要因になりやすいため、茎数が多い場合は控えましょう。
- ・減数分裂期の追肥は、粒数の減少を防ぐ他、**登熟を良化**させます。今年も登熟期間の高温が予想されるので、登熟不良を避けるためにも積極的に実施しましょう。
- ・追肥判断は、葉色を測定し、目安の範囲内かそれ以下であれば追肥を行ってください。

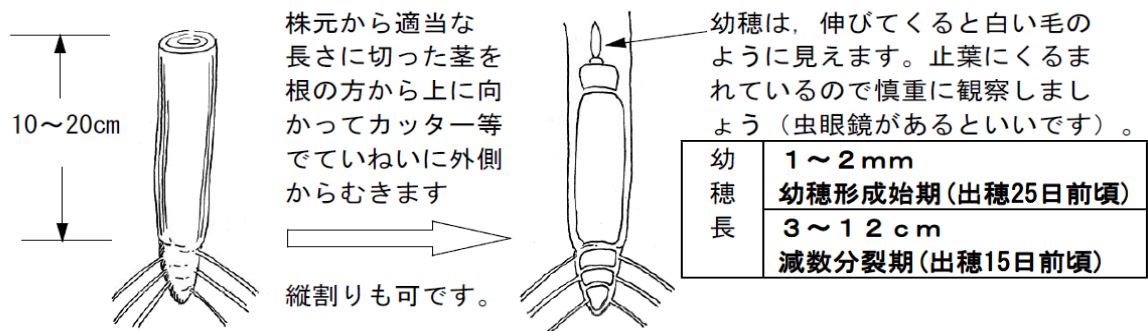
表5 追肥の要否判定の目安

品種名	幼穂形成期（出穂約25～20日前）				減数分裂期（出穂約15～10日前）			
	葉色		追肥窒素量		葉色		追肥窒素量	
	カラスケール	葉緑素計			カラスケール	葉緑素計		
ひとめぼれ	4.4 ～ 4.8	38 ～ 40	1kg/10a		4.0 ～ 4.3	35 ～ 37	1kg/10a	
つや姫	4.0 ～ 4.3	35 ～ 37	2kg/10a		—			
まなむすめ	4.0 ～ 4.3	35 ～ 37	2kg/10a		—			
ササニシキ	—				3.5 ～ 3.8	32 ～ 34	1～1.5kg/10a	
だて正夢	—				4.3 ～ 4.6	37 ～ 39	2kg/10a	

注）カラスケールの値は、県稲作指導指針（基本編）に記載されている

「葉緑素計値（SPAD502値）×0.162－1.709」で計算した値を使用しています。

【幼穂長の調べ方】



(3)斑点米カメムシ類

・昨年、大河原管内では特に大型のクモヘリカメムシが多発し、斑点米カメムシ類による被害が多く発生しました。

・斑点米カメムシ類の発生を抑えるためには、

- ① ヒエやホタルイなどのカメムシ類が好む雑草を本田に残さない
- ② 畦畔での増殖を抑えるために7月中旬(稲の出穂10日前)までにほ場周辺の休耕田や土手・畦畔等の除草を行う

ことが重要です。

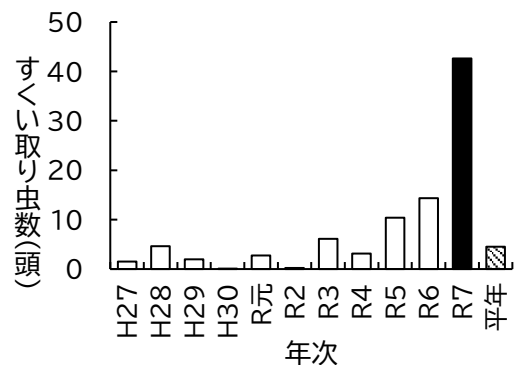


図3 大河原地域におけるクモヘリカメムシのすくい取り虫数の推移(8月中旬)
(県病害虫防除所調査)



アカスジカスミカメ
体長 5 mm程度

ホソハリカメムシ
体長 10 mm程度
肩がとがっている

イネカメムシ
体長 13 mm程度
丸みを帯びている

クモヘリカメムシ
体長 16 mm程度
緑色で細長い

図4 主要な斑点米カメムシ類

※縮尺は画像によって異なります。(右にいくほどより大型のカメムシ)

【イネカメムシ】

・イネカメムシは、令和5～7年度に福島県で発生が確認されていますが、本県での発生はまだ確認されていません。

・イネカメムシは、出穂期の稲を加害し、斑点米や不稔粳を発生させることから、減収につながります。

- ・イネカメムシやそれに似たカメムシを見つけた場合は、普及センターか県病虫害防除所に情報提供をお願いします。

大河原普及センター先進技術第一班 病虫害防除所予察班	TEL: 0224-53-3496 TEL: 022-275-8982
-------------------------------	--

(4)病虫害防除 穂いもち

- ・7月は高温傾向になると予想されており、7月に入ってから、連続した感染好適条件が出現していませんが、生育量の多いほ場や葉色の濃いほ場は、発生に注意しましょう。
- ・上位葉での「葉いもち」は「穂いもち」の重要な伝染源になるため、ほ場を見回りながら、早期発見と防除に努めましょう。

(5)雑草防除

- ・中干し後の雑草の発生に注意しましょう。特に、ヒエ・ホタルイは、斑点米カメムシ類を呼び込むので、適切な薬剤(中後期剤)を選んで防除しましょう。
- ・ここ数年は、7月以降に発生するヒエが目立っています。雑草が大きくなると除草剤が効きにくくなるので、ほ場をよく観察し、雑草が成長する前に防除しましょう。

4 直播栽培の管理のポイント

(1)生育状況 (7/10調査)

【湛水直播】

表6 湛水直播の生育調査結果

地域	品種	播種月日		苗立数(本/㎡)		草丈		茎数		葉数		葉色	
		本年	平年	本年	平年	(cm)	平年値	(本/㎡)	平年値	(枚)	平年値	(GM)	平年値
蔵王町	ひとめぼれ	5/29	5/10	67.9	56.5	32.2	56.9	185	495	7.9	10.3	44.8	43.4

※今年は播種が5月下旬に変更になったため、平年値との比較はなし。

- ・播種日の遅れを考慮し、直近5か年の 6/20、7/1 調査と比べると、茎数がやや少なく、他は平年並み。
- ・5月上旬中旬に播種した場合は、表6の平年値を参考にしてください。

【乾田直播】

表7 乾田直播の生育調査結果

市町	品種	播種日	苗立数 (本/㎡)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉数 (枚)	葉色 (GM)	幼穂長 (mm)
村田町	ひとめぼれ	3/15	106.7	56.8	423.4	9.8	41.3	2.7

※R8 から新規で調査しているため、比較対象はなし。

- ・7/9 頃に幼穂形成始期に入ったと予想される。

- ・茎数、葉色ともに、概ね順調に生育している。

(2)管理のポイント

- ・基本的には、移植栽培と同じです。ポイントのみ記載します。

【いもち病防除】

- ・葉いもちの発生が確認された場合は、速やかに茎葉散布剤を散布してください。
- ・直播栽培では葉いもち防除を行っていないことが多いので、ほ場をよく観察し、早期発見、早期防除に努めましょう。

【紋枯病防除】

- ・近年は、高温の影響で紋枯病の発生が多くなっています。特に条播のほ場では、条に沿って感染が広がりやすい傾向があります。
- ・前年に紋枯病の発生が多かったほ場では、出穂前の予防剤の散布や、穂ばらみ期頃の茎葉処理剤散布を検討しましょう。

【イネツトムシ防除】

- ・直播栽培は、移植栽培よりも葉色が濃くなるタイミングが遅れるため、イネツトムシの被害を受けやすくなります。
- ・イネツトムシは、8月上旬頃から幼虫の食害が始まり、葉を円筒状につづった「ツト」を形成します。
- ・発生が多いと減収するので、殺虫剤による防除を行いましょう。

○夏の熱中症等対策声かけ期間(7月～9月)

- ・農作業中の熱中症等による死亡者が急増しています。
- ・こまめに休憩と水分・塩分を取りながら農作業を行いましょう。
- ・熱中症は自身では気が付きにくいので、一人作業を避けて、お互いに声掛けしましょう。

○令和8年度宮城県農薬危害防止運動(～8/31)

- ・農薬を使用する際は、農薬ラベルをよく読み、周辺へ配慮し飛散防止対策を徹底しましょう！
- ・最新の農薬情報は、農林水産省ホームページで確認できます。